

「ももちやり」がまちづくりを牽引 自転車先進都市おかやまの取り組み

岡山市長
大森 雅夫

「自転車・バイク・自動車駐車場 パーキングプレス」誌 発行人
森井 博

【プロフィール】

大森 雅夫 (おおもり まさお)
1954年岡山市東古松生まれ。1972年岡山県立岡山操山高校卒業、1977年東京大学法学部卒業。1977年建設省入省。2003年内閣府大臣官房会計課長(兼)内閣官房内閣参事官。2012年国土交通省国土政策局長。2013年に国土交通省を退官後、同年岡山市長選挙に立候補、初当選。2017年岡山市長選挙二期目当選、現在に至る。趣味はスポーツ(特にテニス)、旅行、読書(特に歴史小説)



首都圏に加え、複数の地方政令都市でも駐輪場、駐車場の管理運営を行っているサイカーピングにとって、岡山市は重要な取引先のひとつだ。2011年9月にシェアサイクルの社会実験を行って以来、お付き合いをさせていただいている。

その社会実験に端を発し、現在、岡山市を走っているシェアサイクルが「ももちゃり」だ。2013年の本格開始以降、ポート数、自転車台数が順調に拡大、増加しているのもさることながら、注目すべきはその利用回数と回転率である。2017年度には1日当たり平均約1500回の利用、回転率は3.85回/日といずれも全国でトップクラスの結果を出している。今後、それらの数値はもっと向上していくだろう。

全国を見渡すと苦戦するシェアサイクルも少なくない中、「ももちゃり」はなぜ成功しているのか。その理由を聞き出すべく、我々は岡山市の大森雅夫市長を訪ねた。なお、今回の対談のセッティングには、以前、本欄にもご登場いただき、大森市長とは旧建設省・国土交通省時代からの旧知の間柄である松谷春敏氏の尽力があった。この場を借りて御礼を申し上げる。

(対談収録：2019年5月7日)

晴天日数の多さ、平坦な土地 自転車に適した環境が奏功

森井 まずは単刀直入に「ももちゃり」成功の背景からうかがっていきたくと思います。お考えを聞かせてください。

大森 最初に挙げられるのが地理的な優位性です。岡山は「晴れの国おかやま」の別名もあるほど、晴天の日、雨の降らない日が多い土地のため、自転車が利用しやすいのです。

森井 実際、今日も外は快晴です。温暖な気候のようで、確かに自転車移動は快適でしょうね。そういえば愛媛県の

今治と広島県の尾道の間にはサイクリングロードが整備されたしまなみ海道もあります。瀬戸内海には自転車フレンドリーな自然環境があるのですね。

大森 加えて岡山市の場合は土地が平坦であることも有利です。岡山平野のうち約218平方キロメートルはかつての干拓でつくられた海拔ゼロメートル地帯で、起伏がほとんどありません。風も強くなく、自転車に乗ると穏やかな「瀬戸の夕風」を感じていただくこともできます。こうしたことから、もともと岡山市民にとって自転車は非常に身近な移動手段であり、シェアサイクルの利便性の高さは受け入れられると考えました。

森井 当社もかつてお世話になったのですが、本格運用を開始する前に社会実験を行って、市民のニーズをしっかりと把握されたことも要因でしょうか。

大森 そうですね。2010年春・秋、翌年2011年と計3回行いました。

森井 実験では主にどのような市民のニーズが確認できたのでしょうか。

大森 多くの方にとって利用しやすいサイズの自転車、簡単な登録方法、多様なニーズに応える決済方法や料金プランなどを求められていることが確認できました。

森井 確かに決済方法や料金プランは多彩ですね。

大森 はい。決済は、現金、交通系ICカード(ICOCA、Suicaなど)、クレジットカードで行えます。また、料金プランの1つである回数券は全国のシェアサイクルの中でも珍しく、利用者にとって使い勝手の良いプランだと思います。実はこの4月から以前は5回300円だったのを、7回500円に値上げさせていただいたのですが、それでも1回あたりの利用料金は約70円と大変リーズナブルであり、今後ご利用いただけると期待しています。

森井 1回100円、60分以内の繰り返し利用200円という設定は据え置きそうですね。これも割安感があります。登録方法も他のシェアサイクルと比較するとかなり簡単ですね。

大森 そうなんです。多くの方が持っていると思われる交通系もしくは商業系(nanaco、WAONなど)のICカードとショートメールが受信できる携帯電話、この2つがあれば、どのポートでも路上端末機の簡単な操作で登録できます。この手軽さも支持されている理由の1つだと考えています。結果、岡山市都心部における利便性の高い交通手段として認知され、鉄道と組み合わせた二次交通としての利用が定着したと感じています。ちなみに、私自身も「ももちゃり」を愛用していますよ。



現在ポートは34カ所、412台。1回利用100円、60分繰り返し利用200円、7回分500円(無期限利用可)、1ヵ月利用1500円など多彩な料金プランが用意されているのも人気の理由だ





岡山駅前広場での「ももちゃり」専用ICカード発行によるインバウンド利用の増加を狙う

森井 今後、「ももちゃり」が変わらず市民の足となり、サービスを提供し続けるためには何が重要だと思われますか。

大森 「ももちゃり」の運営は、他都市と比べて利用1回当たりの運営経費が158円と安く、高いコストパフォーマンスを維持しています。展開エリアをやみくもに広げることなく、ポートの密度を高め、なおかつ適切な場所に設置して、今後も同様の高いコストパフォーマンスを維持

していくことが重要だと考えています。

森井 課題を挙げるとすればどんなことになりますか。

大森 他のシェアサイクルも同じだと思いますが、採算性の確保は大きな課題ですね。「ももちゃり」は、平日の岡山駅東口ポートに利用が集中する傾向があり、こまめな自転車の再配置が欠かせません。そして運営経費のおよそ半分をこの再配置のための人件費が占めているんです。岡山市が負担する利用1回当たりの負担金は、2013年の約280円に対し、2016年は約85円と順調に減っているのですが、それでも支出が収入を上回っている状態です。

森井 自転車のドレスガードには広告掲出もあり、そちらからの収入もありますよね。

大森 はい。それは運営事業者である御社の自主事業として継続していただく方針です。今回、御社が岡山市の市営駐輪場の指定管理者となり、なおかつ「ももちゃり」の運営事業者も兼ねることになったことから、御社のアイデアにも期待しています。市営駐輪場と「ももちゃり」、両者の一体的管理で運営の効率化が進めば理想的ですね。

森井 かしこまりました。課題の点で、もうひとつ聞かせてください。岡山市も外国人観光客が増えていると推測しますが、

「ももちゃり」の対応はいかがでしょうか。

大森 路上端末機は、当初から4か国語表示を行っています。ただ、観光目的で岡山市を訪れる外国の方は、日本のICカードやショートメールを受け取れる携帯電話を持っていない方も多く、「ももちゃり」を使えないケースがあります。

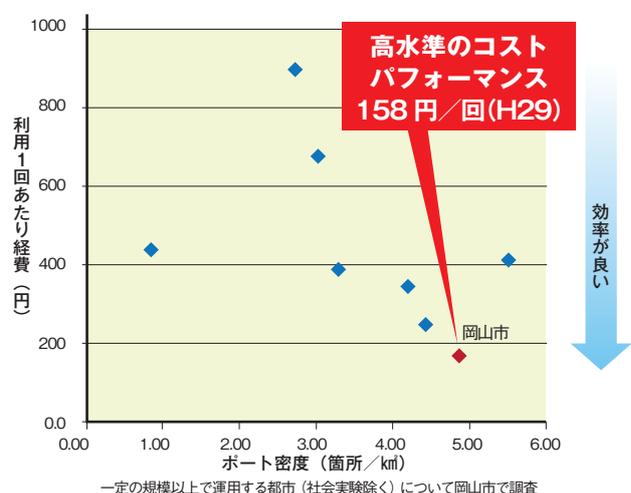
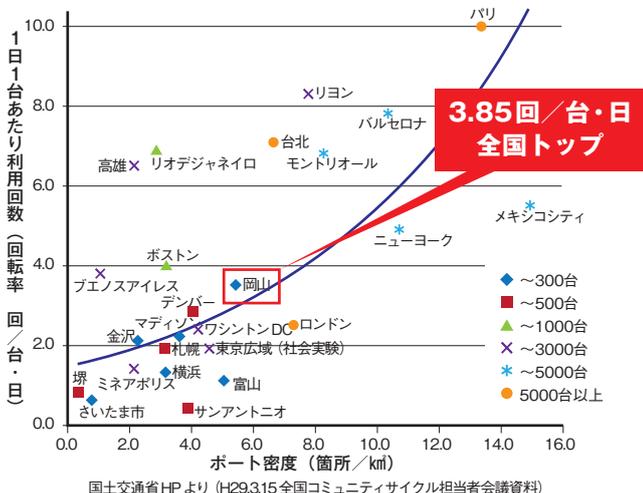
森井 なるほど。

大森 そこで対策を計画しています。この6月に、市内を走る路面電車・岡山電気軌道の岡山駅前乗り入れについて、都市計画決定をしたいと考えています。現在はJR岡山駅と路面電車の岡山駅前停留所が100mほど離れているのですが、駅前広場をリニューアルしてJRの駅と路面電車を近づけることで、アクセスが格段に改善されます。このリニューアルに伴い、駅前広場に設置予定の公共交通案内所兼待合所で、「ももちゃり」専用のICカードを発行することにより、外国人観光客の方にも利用しやすくすることを検討しています。

森井 それは良いですね。岡山市には後樂園、岡山城など見どころがたくさんありますし、それらの位置が岡山駅から自転車で向かうのに程良い距離ですからね。さらなる利用回数、回転率の向上が期待できそうです。

大森 私もそう願っています。

高いコストパフォーマンスを維持する「ももちゃり」



「自転車先進都市 おかやま実行戦略」の推進で 自転車利用環境総合満足度が向上

森井 昨年6月、自転車活用推進計画が閣議決定され、我々の業界にとって歓迎すべき環境が整いました。岡山市における自転車活用推進計画の展望や期待をお聞かせください。

大森 岡山市では自転車活用推進法に先駆ける形で、2012年に策定した「自転車先進都市おかやま実行戦略」に基づき、5つの施策分野（走る、停める、使う、楽しむ、学ぶ）に重点を置いて自転車の利活用を促進してきました。その成果として、2011年に市内で1620件あった自転車関連事故が、2017年には約61%減の634件になりました。また、放置自転車台数も2010年に5691台だったのが、2017年には約44%減の3198台になりました。さらに、「ももちゃり」の1日当たりの回転率は3.85回と全国トップクラスの数値を示しているわけですが、これは当初の目標値の4倍近くです。

森井 それらの数値で、改めて岡山市が自転車の先進都市である事実が浮かび上がりますね。

大森 ありがとうございます。警察からも、放置自転車台数の減少は、自転車盗件数の減少の要因にもなっており、ひいては少年非行の減少にも繋がっているとの評価をいただいております。

森井 駐輪場の整備が放置自転車台数を減らし、なおかつ市内の治安や風紀の改善にも資するのは良いことですね。かつてニューヨークのジュリアーニ市長が採用して治安改善に成果を上げた割れ窓理論にも通じるものがあるかもしれません。

大森 結果として、2011年に10.1%だった自転車利用環境総合満足度は、2017年には24.8%まで上昇しました。ただ、見方を変えれば満足している方はまだ全市民の4分の1であるとも言

えます。自転車活用推進法が制定され、自転車利用に関して重点的に国の支援を受けることが可能になってきていることから、今度も引き続き実行戦略を踏まえて、自転車利用環境の向上に取り組みたいと考えています。

森井 パーキング業界にはどんな役割を期待されますか。

大森 これからの人口減少社会への対応として、現在のサービス水準を落とさず、人手不足への対応や、経費削減につながるシステムの開発など、より効率的な運営管理を期待したいですね。

森井 承知致しました。なお、サイカパーキングからは岡山市様に対して、駐輪場に新たな付加価値を加えるサービスを提案しています。具体的には「自転車修理取次サービス」や「自転車関連グッズ販売」「宅配ロッカー設置」などです。

大森 うかがっております。本来の機能である駐輪に加えて、さらに利便性が向上する提案だと思えます。御社が管理されている駐輪場は都心部で立地が良かったため、これからもいろいろな付加サービスを提案いただければと思います。なお、岡山駅東口・西口の地下駐輪場をはじめ



各駐輪場を丁寧に管理していただき、利用者からは概ね好評をいただいております。

森井 ありがとうございます。今後も高評価をいただけるように努めます。ちなみに利用者様からは具体的にどのような声をいただいているか、ご存じでしょうか。

大森 空いている場所への誘導や定期券更新時の迅速で丁寧な対応、あいさつや声かけなど、やはり管理員さんの姿勢が良いとの声を聞いています。これからもよろしくお祈いします。



岡山駅前の桃太郎像、日本三名園のひとつ後楽園、岡山城は市内の代表的な観光スポット。岡山駅前から後楽園のポートまでは約10分と自転車利用には適度な距離（写真提供：岡山県観光連盟）



2車線道路(県庁通り)の 1車線を転換 歩行者中心のまちづくりに着手

森井 では、ここからは自動車の駐車場について聞かせてください。岡山市内の自動車駐車場整備の現状と課題、市街地において自動車駐車場が果たすべき役割などをどのように考えておられますか。

大森 市内中心部には市営だけでなく、民営のコインパーキングや月極駐車場が多数あり、需要は充足しているのではないかと考えています。今後は、現在進めている歩行者中心のまちづくりのために、適切な位置に駐車場が配置されるよう民営事業者を誘導することも考えなければならぬと思っています。また、市街地周辺の駐車場は、他の移動手段との乗り換え拠点となるフリンジ駐車場として機能させることも必要だと考えています。

森井 歩行者中心のまちづくりを進めているとのことですが、駐車場以外で具体的な施策はありますか。

大森 2014年12月に大型ショッピングセンターのイオンモール岡山がオープンし、連日にぎわいを見せています。それは岡山市として歓迎すべきことなのですが、一方で、買い物客がそこに集まり、市内の人の回遊性が低下する傾向も出てきました。そこで、イオンモールの東側に位置し、古くからの目抜き通りである表町商店街にも人を呼び込み、都心部の人の回遊性向上、にぎわい創出のため、市内東西を走る幹線道路「県庁通り」のリニューアルを行います。

森井 どのような計画なのですか。

大森 現状2本走っている車線を1車線に減らすことで生み出した空間を歩行者用に転換する計画です。今年、道路工事に着手する予定です。

森井 1車線を転換してしまうというのは大胆でユニークな策ですね。

大森 もちろん自転車走行空間も整備しますので、「ももちゃり」も快適に走ることができるでしょう。岡山市らしさを表現したストリートファニチャーを設置して、快適な人の居場所をつくりたいと考えています。現在、都心部ではマンション、店舗など10以上の再開発が進んでおり、人が戻ってきているところ。県庁通りのリニューアルがきっかけとなって、さらに岡山市が活性化することに期待しています。

既存JR路線のLRT化合意 コンパクト+ネットワークを 積極的に推進

森井 最後はコンパクト+ネットワークの話題です。駐車場・駐輪場が、パークアンドライド、サイクルアンドライド、自動車から電車、自転車から電車、自動車・自転車から徒歩へと違うモードへ移るための結節点となることから、コンパクト+ネットワークは、我々の業界にとって大きな意味を持つ施策です。岡山市では、コンパクト+ネットワークはどのように位置づけられているのでしょうか。

大森 岡山市の人口は現在約72万人ですが、今年がピークアウトとなり、来年以降、減少のトレンドに入っていくことが予想されています。それを見越して、2017年3月に策定した第六次総合計画において「コンパクトでネットワーク化された快適で多様なまちづくり」を基本方針のひとつとしています。先ほど県庁通りのリニューアルの話でも触れましたが、鉄道やバスなどの公共交通を中心に、徒歩、自転車、自動車を組み合わせて移動できる「自動車優先から人優先」の交通体系への転換を進めています。

森井 県庁通りのリニューアル以外で進めている施策はありますか。

大森 コンパクト+ネットワークは、まずネットワークの整備が大前提にある

と考えています。その一環として、岡山市の西にある総社市へ向かうJR吉備線(桃太郎線)のLRT化を計画しています。2018年春に総社市、岡山市、JR西日本の3者が事業の役割分担や費用負担の考え方について合意しました。

森井 地方都市のLRT導入といえば、2006年に開業した富山ライトレール、さらに2022年開業予定の宇都宮のライトレールなどを連想します。岡山のLRTはいつ頃実現する計画ですか。

大森 あくまで現時点での思いですが、この先10年程度と考えています。また、バスについても持続可能な再編を目指して、市内の9事業者と話し合い、できるだけ足並みをそろえられるよう調整を続けています。いずれにせよ将来的に人の乗り継ぎポイントになる駐輪場、駐車場の役割が大きいことは変わらないでしょう。今後ともコンパクト+ネットワークを支える交通体系の実現に向けてしっかり取り組んでいきたいと考えています。

森井 他に岡山市発展のためにお考えになっていることは何でしょうか。

大森 岡山市は中国・四国エリア全域で考えますと、交通の要衝に当たります。岡山駅からは中四国のほとんどの県庁所在都市に直通の路線が走っておりますし、



岡山市民に長年親しまれてきた路面電車「岡山電気軌道」。ももちゃりと組み合わせて利用する人も多い。この車両は九州新幹線「つばめ」をデザインした水戸岡鋭治氏の手によるもの

高速道路、瀬戸大橋などを使えば車でのアクセスも容易です。

森井 いわば中四国エリアの玄関口、ハブ的存在ということですね。

大森 そのとおりです。事実、企業の中四国支社は、私が市長に就任した2013年には岡山市内に60数社あったのですが、現在は100社以上にまで増えました。また、ビジネスや各種イベント、観光などに関連したコンベンションが開催されることも増えています。

森井 市内のコンベンション施設は充実しているのですか。

大森 はい。岡山駅西口から徒歩3分の場所にある岡山コンベンションセンター(ママカリフォーラム)をはじめ、各種のホールや市民会館、ホテルなど40以上の施設があります。ちなみに、公益社団法人おかやま観光コンベンション協会では、コンベンションを開催される主催者の皆様に対し、補助金交付などの支援をさせていただいておりますので、機会があり



対談は市役所本庁舎内の市長室応接スペースで行った。本庁舎は竣工後50年以上が経っており、耐震基準を満たしていないため建て替えの方針が公表されている。新庁舎は2025年度に竣工予定だ

ましたらぜひご活用ください。

森井 それは良いですね。サイカパーキング社内には、パーキング業界の各団体事務局もありまして、研修や勉強会などを頻繁に企画しておりますので、いざれ活用させていただきます。本日は「ももちゃり」成功の背景について詳しく教えてい

ただいたほか、岡山市の都市交通政策、LRT化やコンパクト+ネットワーク構想など興味深いテーマについてお聞かせいただき、勉強になりました。今後とも市営駐輪場、「ももちゃり」の運営管理を通じてお世話になります。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。 **PP**

【パーキングプレス 発行人】 **森井 博** のプロフィール

- 一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長
- 一般社団法人 自転車駐車場工業会 会長
- 一般社団法人 日本シェアサイクル協会 専務理事
- 東京京橋八重洲ライオンズクラブ 会員
- 六本木男声合唱団 団員
- サイカパーキング(株)、日本駐車場救急サービス(株)、モーリスコーポレーション(株) 夫々代表取締役会長

【略歴】 1938年(昭和13年) 宮崎県延岡市生れ80歳。
1957年(昭和32年) 石川県立金沢泉丘高校卒
1961年(昭和36年) 東京商船大学(現東京海洋大学) 卒
1961~1979年 石川島播磨重工業(現: IHI)
1979~1991年 東芝
1991年~ 現職

【趣味】 現在: ゴルフ・車・自転車・歌・仕事
過去: 水泳・野球・陸上競技・テニス

【遍歴】 ゴルフ: 毎週1回ホームコースでラウンド、週1~2回練習場通い。
車: 毎日通勤で運転。中古車3台を大切に乗り廻す。
自転車: マツダレベル、プリチストーンモルトン、プロンプトン他数台保有するも年齢を考え余り乗らない。
歌: 六本木男声合唱団でロクに楽譜も読めないのに毎週練習に励む。
'17年11月にはローマ、パチカン市国の大聖堂でミサ合唱。
'18年6月にはニューヨーク・カーネギーホールで14曲合唱。
仕事: 健康のため平日は毎日9:00~17:00出勤。但し、土、日、祝日は絶対に出社しない。
水泳: 漁港で漁師の子供達と一緒に育ったため、小学校に入る前から泳ぎは得意。
野球: 中学生までは本気でプロになるつもりであった。元西鉄ライオンズ 故・稲尾和久投手、完全試合投手 田中勉、元巨人 淡河弘捕手は友人。巨人監督 原辰徳氏の父 故・貢氏も友人で辰徳監督のボクサー犬が産んだ子犬を貰った仲。
陸上競技: 高校時代 短距離、やり投げ、インターハイ2回出場。東京陸協元会長でオリンピック3回出場の大串氏とは友人。
テニス: 元テニ杯選手 本井満氏のコーチでかなりの腕前(?)になるも、45歳時アキレス腱断裂でウィンブルドン出場(?)断念。

過去の対談ゲストの方は、WEBでご紹介しています

パーキングプレス 対談 で検索

または <http://www.parkingpress.jp/taidan/> にアクセス

対談記事のバックナンバーもご覧いただけます。

